

9 Jomon Times

vol.175

広報 縄文村だより vol.175 (9月号)



令和2年9月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



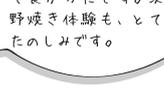
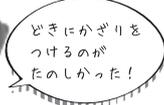
縄文人の必需品、 「縄文土器」づくりに挑戦!

開館当初から続く長寿イベント「縄文教室」。今年も19組51名の皆さんにご参加いただき、7月18、19日に第1回目「縄文土器作り」を開催しました。今年も半数近くが初参加。「こんな土器を作りたいんです!」とほりきる方や「土器ってなんだろう?どんなふうにするのかな?」と不思議そうにする子どもたちまで反応は様々。講師の菊地逸夫先生(元・東北歴史博物館研究員)の指導のもと、土器作り開始です。転がしてひも状にした粘土を積み重ねて形作っていく土器。形が出来てくる頃には大人も子どもも真剣そのものの表情。「ツボ型にするにはどうしたらいい?」「縄文土器のこの飾りはどうやって作っているの?」など積極的に質問しながら制作する姿が印象的でした。縄文教室は、8月中旬に野焼きし、9月に縄文料理を作る予定です。



はじめての 土器作り!

みんなの作品と感想。



どきどきがつけるのがたのしかった!

縄文人のレベルの高さ土器を作る大変さがよく分かった。

縄文時代にあったものを、今、自分がつくって良かったです。次の野焼き体験も、とてもたのしみです。



縄文の丸木舟作り

2020年9月19日(土)~20日(日)
10:00~14:00 (予約不要・参加無料)

みんなで縄文の舟作りに挑戦しよう! はじめての方も大歓迎。開催時間中、お好きな時間にお越しください。



お月見ナイトミュージアム ×フード(風土)バー!

2020年10月3日(土)
17:00~20:00 (予約不要・参加無料)

今年のナイトミュージアムのテーマは「お月見」!夜の博物館ツアーのほか、星を見る会も行います。



丸木舟、 順調に進んでいます!

開館30周年を迎える2022年完成を目指し、昨年開始した「縄文の丸木舟作り」。6月21日、7月5日にイベントを開催し、2日間で19組46名の方にご参加いただきました。

現在は、丸太の上半分を取り除く作業を行っています。V字に深い切れ込みを入れて、そこを取っ掛けりに、間を取り除いていきます。常連さんは朝からフルスイングで石斧を振り続けました。今回は、飛び入り参加OKのイベント。資料館の見学者をはじめ、通りすがりに「あれは何だろう?」と見いらした方も、丸木舟作りに参加!石斧の持ち方や振り方に戸惑っている様子もありましたが、少しずつ木が削れていくと「石の斧で木が削れるのが面白いね!」「またやってみたい!」と楽しんでいただけようです。2日間で削れた量は28kg!まだまだ先は長いですが、昨年終了時と比べると確実に削れてきています。今月19日、20日に丸木舟作りを開催します。壮大な(?)プロジェクトにぜひ参加してみませんか?

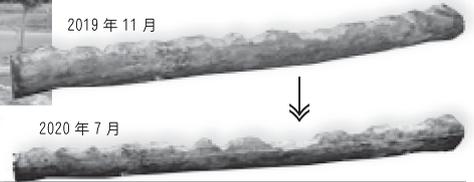


等間隔に並んでひたすら斧を振ります。丸太の下は削れた木屑でいっぱい!



V字の切れ込みをめがけて一撃!

2019年11月



2020年7月

- ★夜の博物館ツアー... ライトを手に、照明を落とした展示室を探検!光を照らしてみる土器や貝層は一味違います。
- ★星を見る会... うずまき星雲や星団を観察します。肉眼ではほとんど見ることが出来ない星を写真データでお渡しします。保存するSDカードをご持参ください!どんなふうに見えるのかお楽しみに。
- ★フード(風土)バー!... 地物を使った料理を提供します。コロナウイルスの状況により中止する場合があります。詳細は次号でお知らせします。

イベントへ参加する際のお願い

- マスクを着用してください。
- 手指の消毒をこまめにお願ひします。
- 体調が悪い方(37.5℃以上の発熱・咳・倦怠感)は参加をご遠慮ください。
- 職員および参加者から感染者が発生した場合のために「参加者名簿」記入をお願いすることがございます。対策のためご協力いただきますようお願いいたします。

もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 (第31回)

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課基地対策・地域振興係 ☎内線1234・1264



豊かな自然の中で生きる



林業(特殊伐採)

さとうだいすけ 佐藤大介さん(38)

仙台市宮城野区出身で、前職は木造住宅のアフターメンテナンや施工関連など建築業の仕事に携わって来ました。何か手に職をつけて独立したいという気持ちがあり、興味を持ったのが林業でした。さまざまな研修などを受けて知識を高めていた中で、東松島市地域おこし協力隊の卒業生である神吉雄吾(かみきちゆうご)さんを紹介され、特殊伐採の存在を知りました。根元近くを切って倒すのが一般的な伐採ですが、付近に住宅などがある場所では、ロープで木に登り、上部から徐々に伐採していきます。それが特殊伐採で、非常に魅力を感じました。神吉さんは妻の恵子さんとともに野蒜地区の復興の森なども手がけており、指南をいただくことを依頼しました。自分の妻にも相談し、やりたいことをしと背中を押してもらえました。現在は作業の手伝いのほか、低い木で伐採の練習をさせてもらっていますが、見るとやるでは大違いで、日々勉強と経験を積んでいます。自然の中での仕事はやりがいがあり、一本一本と向き合う伐採のスタイルも気に入っています。家庭のことは妻に任せており、技術習得に集中できる環境を作ってもらっていることにも日々感謝です。将来は一人親方として起業していければという夢があります。高所作業で危険を伴う仕事ではありませんが、この東松島市で技術を身に付け、高めていく過程の中で、地域とも触れ合えていければと思います。よろしくお願ひします。